

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	りの			
○保護者評価実施期間	2026年1月15日		～	2026年2月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	3
○従業者評価実施期間	2026年1月15日		～	2026年2月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月24日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ルールを守り集団の中で過ごす経験を積むことで社会性を養うことができる。	日常生活動作を繰り返すことで行動のルーティン化から、成功体験、褒められる喜びを経験できるようにしている。	個々の特性や理解度を職員間で共有することで同じ方向性の療育を目指します。
2	昼食を共に食べることで、食への興味関心を引き出す取り組みを行っている。	偏食やこだわりについて家族とも情報を共有し、色々な食べ物に触れる機会を設けている。	摂食や嚥下、感覚やアレルギー等についての研修や勉強会に参加する機会を設ける。
3	2～4名程度の小集団の療育のために個々に寄り添いやすい。	職員1対児童1の対応ばかりに偏らないようお子様同士の関りが持てるよう意識している	対応や関わりについて職員間で方向性を共有していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員一人一人の療育力・専門性の向上など事業所全体での底上げが必要である。	お子様の様子に応じて臨機応変に支援プログラムを組み立てる力が必要な為、個々の体験や知識によって偏りが生じやすい。	経験の豊富な職員がフォローを行うなど、職員間での情報共有を行いチーム全体で支援方向を検討し、質の向上を図る。
2	新規利用児の受け入れが難しい。	見学や新規申し込みの連絡をいただくことがあるが定員等の理由によりお断りすることがある。	新規利用希望の方には待機登録をしていただき、空き状況に応じて順番に連絡をさせていただく。
3	利用児の心理的描写を読み取れる職員が足りない。	研修や勉強の場を増やしスキルアップしてもらう機会が少ない。	頻繁に研修などを行えるくらいの人員の確保や時間を設ける。